

地域包括ケアネットワーク No.31

西大寺地区における地域包括ケアの現状

西大寺医師会理事 野田 憲男

西大寺医師会の関わる地域は、岡山市東区全域から瀬戸町を除いた地区になります。岡山市6福社区内では高齢化率がトップであり、その為か介護施設は比較的多くあると思われます。当地区に大きな急性期基幹病院はありませんが、3つの急性期をになう民間の中小病院があります。認知症に係る精神病院はありません。診療所に関しては、在宅専門診療所は無く、在宅療養支援診療所は11施設で、他の内科系診療所も少しずつ往診はされているようです。

地域包括ケアとは、個々の住民に対して日常生活圏内に、住まい、医療、介護、予防、生活支援を連携して包括的にサービスを提供するシステムです。病院、診療所、多職種専門家、行政、地区住民各位の連携と量や質も問われる事となります。当医師会の関わりの現状について述べてみます。

1) 在宅医療介護連携の推進について

平成25年7月に第1回東区在宅医療介護意見交換会が開催され、以後毎年、多職種ワールドカフェ2回、市民と専門職のワールドカフェが1回開催されています。顔の見える関係が次第に出来、少しずつ仲間意識も芽生えてきています。医療の観点からだけでなく、生活の視点、生きがいの視点の重要性や、自立を妨げる度が過ぎた援助の有害性に気づかされます。ただ、もう少しドクターの参加が多ければと思うのですが。

2) 在宅医療介護勉強会の開催

平成27年秋より新たに開催されたドクターが主の勉強会です。在宅医療の機運が医師の間に広がればと思いますが、まだまだ参加者が少ない現状です。多職種との意見交換の場にもしていきたいと考えています。

3) 住民への健康教育、周知啓発の推進

市民と専門職のワールドカフェで残念に思うのは、参加されるのは民生委員、愛育委員、町内会長等一部の人に限定される事であり、実際に介護等で困っている人達の参加が少ない事である。従って今年度からは、各中学校区でのより小さなワールドカフェを順次進めて行く事となりました。主治医を持つメリット、介護保険の利用の仕方、認知症の閉じこもりを防ぐデイサービスの勧め、ロコモ予防、健診のすすめ、他健康教育等の市民への教育、啓発を行政とタッグをくんでやっていく必要性があります。一回りするのに数年かかるでしょうが、医師会としては、全面的に協力姿勢で、行政が主導的に動いて頂きたいと思えます。

まだ他にも1) 病診連携の構築、推進 2) 認知症対策 3) 地域ケア会議への全出席等のやり残しや課題があります。熱意と工夫で少しずつ進めて行ければと思います。ところで、当地区の開業医の平均年齢は65歳。こちらの2025年問題もそろそろ視野に入れなければ…。諸先生大丈夫でしょうか。